

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第 50 回 LLW 廃棄体等製作・管理分科会 (F9Ph2SC) 議事録

1. 日時： 2021 年 1 月 25 日 (水) 13 時 30 分～15 時 40 分
2. 場所： WEB 会議 (Webex を使用)
3. 出席者 (順不同, 敬称略)
 - (出席委員) 柳原主査, 梅原幹事, 坂下, 佐々木, 松浦 (野口代理), 柏木, 山本, 横田, 鈴木, 平井, 岩崎, 小松原, 大浦, 丸, 脇 (15 名)
 - (欠席委員) 武部副主査 (1 名)
 - (常時参加者) 小野, 松本, 加藤, 森本, 満田, 岡田 (6 名)
 - (欠席常時参加者) 古田, 土田 (2 名)
 - (傍聴者) 船橋, 山田 (2 名)

4. 配付資料

- | | |
|---------------|------------------------------------|
| F9Ph2SC50-1 | 第 49 回 LLW 廃棄体等製作・管理分科会議事録案 |
| F9Ph2SC50-2 | 人事について |
| F9Ph2SC50-3-1 | コメント一覧表 - 専門部会書面投票意見対応について |
| F9Ph2SC50-3-2 | 変更点比較表 - 専門部会書面投票コメント対応 |
| F9Ph2SC50-3-3 | LLW 廃棄体等製作・管理分科会の方針確認が必要な事項と確認 (案) |

5. 議事

(1) 出席委員の確認

梅原幹事から, 分科会成立に必要な委員数 (10 名以上) を満足している旨の報告が行われた。

(2) 資料-1 前回議事録案の確認

梅原幹事から, 資料-1 第 49 回 LLW 廃棄体等製作・管理分科会の議事録案が紹介された。議事録案に対するコメントはなく, 承認された。

(3) 資料-2 人事について

梅原幹事から, 資料-2 人事について紹介され, 委員の選任の決議が行われ, 4 名の委員の選任が承認された。

(4) 専門部会書面投票意見対応について

柏木委員から, 資料-3-1 及び資料 3-2 を用いて, 専門部会からのご意見への対応に関して説明された。

- ・ 資料-3-2 No. 70 について, 昭和 28 年に制定された JASS5 では, 注記の図 5.2.3 と図 5.2.4 は各々の説明が逆と思われ, 昭和 32 年に改訂された JASS5 では修正されている。また, 記載内容の「種々の袋に詰めたものを, 鉄筋コンクリート倉庫内又は廊下に置いて, 貯蔵と強度低下との関係を試験した結果」は, 昭和 28 年の 5.2.3 図, 昭和 32 年の図 5.2.5 の説明と読むことが適切と考えられる

ため、標準に必要な内容は、「3 か月を経過したもの、及び湿気を受けた疑いのあるものは、使用前に再試験を行う。」の根拠となるデータであることから、必ずしも必要でない5.2.4 図及び図 5.2.4 を削除した附属書案への変更を考えているが、この点に関して、専門家による確認を専門部会の委員から要求されているので、確認をお願いしたい。

→山本委員：今回修正を行った附属書改正案の記載で問題ないと思われる。

- ・ 資料-3-2 No. 70 の図 5.2.3 について、セメント貯蔵期間が月単位であることを読み取れないため、追記してはどうか。
→図は引用ですので、注記中に、セメント貯蔵期間が月単位であることを補足します。
- ・ 資料-3-2 No. 59 について、規定的なニュアンスは変わらないと思うが、この改正案で問題ないか。
→JIS 様式に示される規定的表現（示すや・・・ではない。など）は附属書（参考）には使用しないことが必要であり、改正案の記載で問題ないと考えている。
- ・ 資料-3-2 No. 72 について、「充填固化体」は「均質又は均一固化体」の誤りであるため、修正すること。
→拝承。

(6) 資料-3-3 LLW 廃棄体等製作・管理分科会の方針確認が必要な事項と確認（案）

柏木委員から、資料-3-3 に示す分科会の基本方針の再確認に関して報告された。コメントはなく、いずれの専門部会からのご意見についても、過去に分科会で審議された方針で専門部会に報告することで了承された。

(7) その他

梅原幹事より、次回専門部会は 2/4 を予定しており、順調にいけばその後、3 月の標準委員会への本報告が行われる予定となる。

また、柏木委員より、懸念事項として標準に引用している日本原燃の埋設事業変更許可申請が現時点で許可が得られていないことである旨の説明が行われた。事業許可が得られていない以上、引用箇所の修正が今後行われる可能性を否定できず、本件は標準委員会への本報告時の懸念事項として報告する必要がある。

6. 次回の予定

次回分科会は、原子燃料サイクル専門部会及び標準委員会の本報告の結果に合わせて別途調整。

以 上